



幼年期教育研究委員会

# おんぎだより

令和5年9月14日(木) 発行 No.3

## 「童浦こども園参観と語る会」報告

7月25日(火)、田原市の童浦こども園を会場に、「園参観と語る会」が開催されました。木の香りがする心落ち着く園舎のどこからでも外で活動する子どもたちを見ることができ、子どもの想像力を育むことを大切に活動に取り組む姿が印象的でした。また、子どもたちが、思いを自分から先生に伝えられる温かい家族のような関わりを大事にしている様子を参観させていただき、とても勉強になりました。園参観と語る会での様子について紹介します。



### 園参観



### 参加者の声



- ・0歳児の段階から手で触る、五感を楽しむ活動を多く取り入れられていて、子どもの発達に合わせた遊び作りの工夫が感じられた。「やってみたい」「やりたい」という思いが引き出せるような授業作りの必要性を感じた。
- ・保育者の人数が多く、準備を平行して行うことができることがすばらしいと思った。
- ・先生方が一人一人をよく観察し、丁寧に声かけをされているところが印象的だった。大切に保育してくださっているおかげで、小学校でものびのびと意見が言える、学びを楽しめる子どもに育ったんだと、改めて感謝した。
- ・死角がない環境での保育は、子どもの主体性が存分に生かせると感じた。のびのびとできる環境を工夫していきたい。
- ・子どもの心が動いたとき、興味が出たときに活動を取り入れているということが印象的だった。
- ・遊びの中から学ぶこともとても大切なことだと感じた。





## 語る会

### テーマ

幼保こども園と小学校との  
なめらかな接続のために大切にしたいこと

### 幼保こども園

- ・保育園から小学校、中学校へと子どもたちの情報がデータで引き継がれていくシステムができあがるとよいと感じた。
- ・「園で小学校に向けてのトレーニングは何かしていますか」と聞かれ、ギャップを感じた。このギャップをうめていけるとよい。
- ・幼児期に主体的に学ぶ力をつけていることが、小学校に行ってからも力になると言われ、今後も力を尽くしていきたい。
- ・小学校との交流をもっと増やすとよい。
- ・入学の際に「読むこと」ができていないと困り感はずいぶん減るとの話を聞いて参考になった。



### 小学校

- ・限りなく小学校に近いと感じた。「子どもにとって」を第一に考えており、いろいろなやり方があって勉強になった。
- ・給食や時間感覚など、園に近づけていけることがあれば子どもの安心感につながると思った。
- ・個性が強い子として捉えられている子について、小学校でも同じ対応ができるようにしていけるとよいと感じた。
- ・卒園までに何ができて何ができていないかを理解することで、園との接続がスムーズになり、子どもたちも安心して活動できると思う。
- ・語る会をすることに意義を感じた。園と学校の連携や情報交換をもっとしなければいけないと思った。
- ・幼保こども園は、一人一人のやりたいことを大切にしているので、小学校は教育の中でそれをどう工夫していくのかを考えていけるとよい。



幼保こども園と小学校のなめらかな接続のためには、お互いのことをよく知ることが大切です。地域ごとに学校と園が積極的に交流の機会をもてるといいですね。

